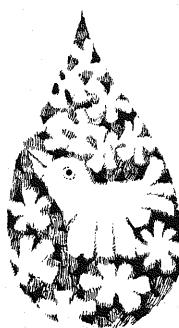


『幼児の教育』と私

新世纪に迎えた第百巻

—その中のひとこま—

村田 修子



新世纪に迎えた第百巻 おめでとうござります。

現在は、長い間かかわって楽しい日を過ごした幼児の世界とかけ離れた環境に居りますが、新世纪を迎えたこの年に、切っても切れない関係を持っていた『幼児の教育』が同じように第百巻になつたということは、とても意義深いことでとてもうれしいことです。周りを見回しても百巻を迎えた本はそうさらには無いと思うからです。

『幼児の教育』の前は『婦人と子ども』の題名で明治三十四年に創刊されました。私が

この本を身近なものとして知ったのは、昭和二十一年（第四十五巻）の第一号で、表紙は白地に明るい茶色で羽を広げた一羽の鳩が描かれていました。戦後の物の乏しい時期でしたから薄い紙で三十二頁位の一冊はかさのないものでした。でも私にとつてはこの一冊がとても印象深い本なのです。

学生時代幼稚園の隣りの校舎に四年間生活して居たというのに、自分のことに精いつぱいだった為か幼稚園のあつたことも建物なども全然目に入つていなかつたのです。その私が先生の養成を看板にしている学校（今は大学）への就職をことわつて幼稚園に勤めたのは、学生の時代に人間というものを一番考えさせて下さつた倉橋先生のお授業があつたことからで、幼児の世界にとび込みました。一人っ子で育つた上にまわりにも子どもが少なかつたので本当に子どものことは何も知りませんでした。

先生は園長室に居られることは少なかつたのですが、時折り一緒に会食をしながらお話しははずむのでした。何気ないお話しの中に大切なことが語られました。それに独特のウイットをませながらのお話で新米の私にとつては感じさせて頂くことがたくさんありました。これは時がたつてから「教育の自然の型」とはこういうものののではないかと思いましたし、子どもに接する基本的な型と思うことになつたような気がします。

特別な用事のあるときは御自身で保育室に出向かれて用件をおつしやつていました。この一年目の秋、「幼児の教育」に運動会のことを書くようにと園庭でいわれました。勿論

この雑誌についていろいろなことを知りませんでした

し、それよりもまだ子どものことがよく分からないと
きでしたから、文章を書くということなど考えてもみ
なかつたことだつたので必死におことわりしました。

けれど、先生は次々と運動会のことや幼児のこと、そ
の心得やヒントなどなど、いろいろなお話しをして下
さいました。その結果私は、「幼稚園の運動会」という題名の文章を書くことになつてし
まいました。

今回これを書くにあたつて改めてその時の記事を開いてみました。子どもにふれて半年
位たつたばかりの者が書いたものとしては割合にいろいろな面のことが掲げられているの
ですが、私としては今でもこれは倉橋先生に書いて頂いたような気がして恥かしい思いが
しています。先生は多分「僕が言つたことを書いただけのこと……」と思われたことで
しょうが、幼稚園の一年生先生と思われて話して下さつたことと思つています。そのとき
行つた種目のかけっこについては大変ほめて下さいました。戦後の何もないときやつと探
した小さなキューピーと鈴を自分達で好きなようにはり絵をした白い袋に入れてぶらさげ
ておき、それを走つて行つて取ることでした。先生は「目標に向かつて走つて行くとい
うのはいいですね」と救いを出して下さつたのも有難いことだつたと感謝したもの



でした。

倉橋先生とのふれ合いのことで終始してしまいそうですが、これを機会にこの表紙にある第一巻から変化があつたと思われる年代の時期の本を見せて頂きました。このように長い期間のものを順次見てゆきますと、月ごとに見ていたときは違つて流れが見えて面白いと思いました。例えば『婦人と子ども』の題名の時は大体三十二頁で、全体的に幼稚園というものを紹介しているようなところや、他の養成所の募集広告があつたり、女学校などの移転や消息などもあつて、大変おおらかでゆつたりとしている感じがしました。その後講習会なども行われるようになつてその紹介とか、歌や保育の内容なども順次のせられています。

一番変化があつたと思われる戦時中（昭和十七年、第四十二巻以後）は「国防国家の幼児教育・戦時国民幼稚園」という副題があつて、大体二十頁程度の長さに納められています。

戦後は新しい憲法・教育基本法・学校教育法及びそれ等の解説や、前の時代には倉橋先生が余り表にお出しにならなかつた子どもに対する考え方などが、水を得たように展開されていて懐かしく思いました。

忘れてかけていたこの本を「改めて見てみよう」という気持ちにならせて頂いたことだけでも、半世紀を共に過ごした私としてはとてもよかつたと思っています。

（元お茶の水女子大学附属幼稚園・洗足学園短期大学並に附属幼稚園）